

(十五) 義和團事件賠償金利用私案

(大正十年六月 未定稿)

七二

- (一) 大正七年一月以降支那政府ノ帝國政府ニ支拂フヘキ團匪事件賠償金ハ約四千四百七十萬圓ニシテ之カ利子トシテ支拂フヘキ分ハ約二千七百三十萬圓ニシテ即チ元利合計約七千二百萬圓ニ相當ス
- (二) 帝國政府ハ大體左記條件ノ下ニ右元利金全部ノ支拂ヲ免除スヘシ
- (1) 大正七年一月ヨリ大正十一年十二月ニ至ル五箇年間支拂猶豫中ノ元利金計約千三百三十萬圓ハ支那政府ノ自由處分ニ委ヌ
- 但シ右金額中ヨリ留日學生費用トシテ從來日本側ヨリ融通セル金額(此額元利約百萬圓尤モ本年七月ヨリ賠償金還附實行期例ヘハ明十一年十二月迄ノ融通ヲモ見越ストキハ尙約百萬圓ヲ計上セサルヘカラス)ヲ優先償還スヘク且ツ爾餘ノ約千三百三十萬圓モ之ヲ教育基金ニ充ツルノ趣旨ニ依リ支那教育部勸定トシテ正金銀行其ノ他本邦銀行ニ預入ルヘシ
- (2) 爾餘ノ元利計約五千八百七十萬圓ノ管理處分ニ就テハ概ネ左ノ方法ニ據ルヘシ

- (イ) 內五千萬圓ハ支那永遠ノ福利ノ爲メ最モ有效適切ニ使用スルノ目的ヲ以テ之カ攻究經理ニ任スル爲メ一財團ヲ組織スヘシ
- (ロ) 殘餘ノ八百七十萬圓ハ(α)支那人留學生ヲ收容スル本邦學校ノ補助(β)支那ニ於ケル本邦人經營學校ノ補助(γ)留日支那學生ニ對スル施設改善(δ)支那ニ對スル文化事業(同仁會、日華學會、日華實業協會ヲ含ム)等ニ關スル當面ノ助成金ニ充ツル爲メ支那政府ノ自發的行爲トシテ之カ處分方ヲ日本政府ニ委託スヘシ
- (本件金額授受ノ方法ハ別ニ協定スルヲ要ス)
- (三) 前掲財團ハ一ニ文化施設ノ助成發達ヲ主眼事業トスル支那法人トシ支那政府ノ監督ノ下ニ置クモ其ノ事業及會計等ハ日本人ヲ入レ日支人共同シテ諸般施設ノ遂行ニ當ルヘク而シテ財團基金ハ前記團匪償金大正十二年以降ノ元利金ノ內約五千萬圓ヲ支那政府ノ寄附行爲トシテ出資スルノ外今後日支兩國國民寄附金ハ之ニ編入スルコトトス
- (四) 元利金全部ノ支拂ヲ免除スト雖賠償金ハ從來ノ通支那海關ヨリ一旦正金銀行ニ支拂ヒ同銀行ニ於テ支那政府教育部勸定ニ振換ヘ右振換ノ段度更ニ之ヲ財團ニ寄附スルノ手續ヲ取ルヘシ
- (五) 支那政府ハ毎年別ニ十萬圓宛前記事業補助金トシテ一定年限引續キ支出シ之ヲ財團ニ寄附ス

七三

スヘシ

(六) 財團ノ事業ハ當該理事者ニ於テ協議決定スヘシト雖概ネ左記事業ノ如キハ賠償金償還ノ一條件トシテ豫メ支那側ヲシテ承諾セシメ置クヲ要ス

(一) 學校ノ經營及日本留學ノ獎勵

(イ) 實業學校及豫備學校(若シ經費ニ餘裕アラハ師範學校ヲモ經營スルコト)ヲ主要各地ニ設立シ支那教育部ノ監督ノ下ニ置ク尙ホ右等ノ學校ニハ成ルヘク多數ノ日本人教師ヲ招聘スヘシ(右學校ニテ特ニ日本語ノ獎勵ヲ圖ルヘキハ勿論トス)

(ロ) 前項ノ實業學校ハ商科工科及農科等ノ實業並ニ技術的方面ノ教授ヲ主眼トシ豫備學校ハ右實業學校入學及本邦留學各志望者ニ對シ豫備教育ヲ施スヲ目的トスルモ其ノ本來ノ趣旨ハ優良分子ノ選擇ニ存ス

(ニ) 支那學生ノ日本留學獎勵及留日學生待遇改善資助並ニ (Returned students association) ノ設立(細目ハ財團理事者ノ審議ニ讓ルヘシ)

(三) 支那學生ヲ收容スル本邦學校ニ對スル補助

(ホ) 前記實業學校及豫備校並支那學生ヲ收容スル本邦學校入學生ニ對シテハ貸費若クハ給費

ノ制ヲ設クヘシ

(2) 病院ノ經營

(イ) 適當ト認ムル各地ニ病院ヲ設立シ且ツ巡回診察及施療ノ制ヲ定ムヘシ又病院ニハ簡易醫學校ヲ附屬設置シ其ノ卒業支那人ハ成ルヘク右病院ニ採用スヘシ

(ロ) 既設邦人經營病院ノ施設ニ對スル補助

(3) 救貧成化其他慈善公的益施設

(4) 「日支人俱樂部」及圖書館乃至博物館ノ設置、講演會其他日支文化提携伸暢ニ關スル宣傳施設、日本觀光團ノ斡旋

(5) 財團ニ對スル日支人寄附金ノ外前掲(五)ニ依ル支那政府寄附金及財團基金トシテ受入ルヘキ免除賠償金中一定額ハ別途基本金トシテ積立ツルノ方途ヲ講スヘシ

上記財團ノ事業ハ其ノ緩急及資金ノ關係等ヲ查覈シ漸次擴張ノ方針ヲ執ルヘシ

(七) 前各項ノ外

(一) 財團ノ監督及教育事業諮議ノ爲團匪償金ノ還附ニ關聯シ教育部ニ邦人顧問ヲ招聘セシムヘシ



(2) 支那既設大學其他專門學校ハ日本語講座ヲ特設シ右ニ關スル必要ノ經費ハ新設財團ヨリ補助セシムルコトトスヘシ

七六

(3) 官費留學生ノ本邦派遣、邦人經營學校卒業ノ支那學生及財團經營學校卒業生ノ任官又ハ就職ニ關シ何等カノ協定ヲ遂クヘシ

(八) 山東問題一般善後處分ニ關聯シ青島ニ日支共營ノ大學ヲ設立シ差當リ農工科ヲ設ケ之カ所要建物ハ日支間ニ協定處分ヲ要スヘキ獨逸兵營其ノ他ヲ以テ之ニ充當シ附屬施設トシテ現ニ青島民政部ニ屬スル農事試驗場、化學試驗場、林務所及種畜場ヲ利用スルカ如キモ極メテ良策ナラヘク又由來山東省ハ所謂孔孟ノ聖域トシテ支那文化發祥ノ地タルニ鑑ミ日支文化融合ノ一機關トシテ文科殊ニ儒教大學ノ併設ヲ提議スルモ一策タルヘク何レニセヨ右等施設ノ經營ニ關シ團匪償金ノ一部ヲ利用スルコトヲ得ヘシ

(九) 滿洲ニ於ケル文化施設ハ滿鐵ヲ中心トシテ之カ發達ヲ計ラシムヘシ例ヘハ在奉天南滿醫學堂ヲ漸次大學組織トシ又在旅順工科學堂ノ如キモ漸ク之ヲ大學組織ニ改メ以テ一ハ支那學生ノ吸收ニ努ムヘク而シテ之カ資助ニ關シテハ滿鐵ノ努力ニ依ルノ外上述財團ノ補助及日本政府ノ所得ニ歸スヘキ滿鐵配當金ノ一部ヲ振向クルカ如キモ好箇ノ一策タルヘシ

(十) 以上ハ單ニ其ノ梗概ヲ開列シタルニ過キス尙ホ私案トシテハ前述セル豫備校ノ設立ハ其ノ主力ヲ南支那ニ注キ一面ニ於テ臺灣ニ純然タル帝國政府ノ施設トシテ實業大學ヲ置キ以テ一ハ彼我文教ノ連絡ヲ計ルコト亦得策ナルヘキヤニ思考スルモ思索未タ全カラス姑ク後日ノ熟査ニ讓ルヘシ

(十一) 兎ニ解帝國政府ハ團匪償金ノ還附ヲ宣明スルト同時ニ之カ有效適切ナル使途ヲ講究スル爲メ日支間ニ委員會ヲ組織シ兩國政府ノ承認ヲ條件トシテ討議協定スルコトヲ承認セシムルニ止メ一切ノ細目ハ右兩國委員會ノ議定ニ讓ルヲ可トス

(十二) 右等ノ準備ノ爲外務大藏文部三省ヨリ委員ヲ選ヒ還附ニ必要ナル手續條件等ニ關シ準備ヲ促進セシメ其ノ帝國議會ノ協贊ヲ要スルモノハ次期議會ニ提出シ明後十二年十二月償金還附實行ノ運ヒニ至ラムコトヲ期スヘシ

(十三) 團匪償金還附實行ニ伴ヒ本邦ニ於ケル支那留學生問題ニ關シテモ刷新改善ノ方途ヲ講スルコト極メテ必要ナリ右ニ關シテハ別冊待遇改善案第一號及第二號ヲ參照酌量セラレムコトヲ希望ス特別別冊第二號「第三實行案甲」ノ「十三、支那人教育事務ニ關スル研究會ノ設立」ハ其ノ内容並ニ於テ尙ホ再考ノ餘地ヲ無シ實際上一必要以外一ハ團匪償金還附ノ前提宣傳トシテ迅速設

七七

置ノ運至ニ至ルヲ得ハ頗ル好都合ナリト信ス
附參考資料

- (1) 本那ニ於テ受領スヘキ支那債券償還金年割表
- (2) 團匪償金還附ノ結果支那ノ利益トナルヘキ數額

其ノ二

目次

(大正七年六月稿)

- 第一、方針大綱
- 第二、在本邦支那人留學生待遇方ニ關シ注意スヘキ諸事項
 - 一、優良學生誘致ニ盡カスヘキコト
 - 二、偏頗待遇ノ撤廢
 - 三、日本留學ノ特長
 - 四、出來得ル限リ合辦組織ヲ採ルコト
 - 五、我官民協力ノ必要ナルコト
- 第三、實行案
 - 甲、主トシテ日本ニ於テ爲スヘキ事業
 - 一、優秀學生優遇法ノ講究
 - 二、官立諸學校ニ於ケル補助費制度ノ廢止
 - 三、日本人教師學生ト支那人留學生トノ親睦ヲ計ルコト
 - 四、私立諸學校ニ於ケル監督ノ嚴密
 - 五、支那人教育ノ爲ニスル健全ナル學校ノ發達補助

- 六、外國人教育視學官制度制定
- 七、支那人留學生官助特ニ政治的煽動者ノ取締
- 八、日支人社交機關ノ設立
- 九、寄宿舎ノ設立、生活情態ノ改善
- 十、新聞ノ利用
- 十一、我小學校教科書ノ內容改善
- 十二、金融關係
- 十三、支那人教育事務ニ關スル研究會ノ設立
- 十四、支那留學生監督事務所ノ發達
- 乙、主トシテ支那ニ於テ爲スヘキ事業
 - 十五、支那ニ預備學校ヲ設置スルコト
 - 十六、支那各地ニ日本學校入學試驗制度設置
 - 十七、支那各地學校設立及補助
 - 十八、日本語普及方法ノ講究
- 丙、資金調達 題
- (參考)
- 支那留學生ノ本邦現在在籍數

第一 方針大綱

東洋ノ大局ニ鑑ミ帝國ノ將來ニ稽ヘ日支提携ヲ圖ルノ緊要ナルハ既ニ本邦朝野ノ認ムル處ナリ而シテ之カ實行方法ニ至リテハ支那及支那人ニ對スル我政治的經濟的活動ニ依リ兩國ノ接近ヲ促進スルノ須要ナルコト勿論ナリト雖モ而モ其實績ヲ收メムカ爲ニハ更ニ根本的ニ日支兩國國民大多數ノ相互諒解感情融和ニ俟タサルヘカラス而シテ此ノ如キ諒解及感情ノ融和ヲ實現セムカ爲ニハ一般支那人ヲシテ日本語ニ通セシメ日本ノ文化及實力ヲ諒解セシムルコト必要ニシテ之カ實行手段トシテハ慈惠的公益的の事業ノ施設ニ向ヒテ特ニ努力ヲ傾倒スルヲ一捷徑ト爲ス就中醫藥ノ設備教育ノ施設、留學生ノ待遇、救濟事業ノ發達ノ如キハ特ニ其效果多カルヘキ問題ナリ而シテ此種ノ事業ハ其性質上朝野ノ同心協力ニ埃タムハ到底成績ヲ舉クルコト能ハサルノ義ハ特ニ注意ヲ加ヘサルヘカラス殊ニ日本語ノ普及ニ就テハ其日支關係上一大勢力タルヘキノ事情ニ鑑ミ充分ノ努力ヲ盡スコト緊要ナリ本案ハ如上ノ趣旨ニ基キ支那人ノ本邦留學ニ關シ帝國政府ノ將來採ルヘキ方策具體案トシテ立案セルモノナリ

第二 在本邦支那人留學生待遇方ニ關シ注意スヘキ諸事項

往年一萬五千ヲ數ヘタリシ在本邦支那人留學生ノ數今日三千餘ニ減少シ又本邦留學ヲ終リテ歸支

セル支那人カ却テ日本ノ爲ニ惡言ヲ吐クモノアリト云フカ如キ情態ヲ改善セムカ爲メニハ根本ニ於テ日本ノ社會一般カ日支提携ノ根本義ヲ了解シテ支那人ニ對スル態度ニ充分ノ注意ヲ加ヘ支那人ノ日本ニ對スル不信疑懼ノ念ヲ解散セシメ日本ニ在リテ居心地好ク就學セシムル様一般ノ趨勢ヲ導クノ外之アルヘカラス、此目的ヲ達成セムカ爲ニハ具體的ニ注意考究スヘキ積極的及消極的事項多之アルヘシト雖モ今其主要緊切ナル數點ヲ左ニ列舉スヘシ

一一六

一、優良學生誘致ニ盡力スヘキコト

往年一萬五千ヲ數ヘタリシ學生カ今日三千内外ニ減少シタルハ一面甚々面白カラサル事態ナルノ觀アルモ實ハ左程心痛スヘキ義ニアラス右ハ政治的又感情的理由ニモ職由スル所アルコト勿論ナリト雖モ其當時ニ在リテハ支那内地ニ於テ普通教育ノ修業ニスラ甚々不便ヲ感シ居リタル爲之カ修得ノ目的ヲ以テ渡日シタル者甚々多カリシカ(當時我國ニモ此目的ニ副フカ如キ中學程度ノ支那人ヲ相手トスル學校有之タル狀況ナリシカ)爾後支那ノ教育施設漸ク整ヒ普通教育ニ左程ノ不便ヲ感セサルニ至リシコト亦支那留學生減少ノ一大原因ナリ依テ我方針トシテハ勿論將來益多數ノ支那人學生ヲ教養シテ日支親善ノ聯鎖ヲラシムル様心掛クルノ必要アルコト勿論ナリト雖モ實ハ數ノ増加ヨリ更ニ須要ナルハ品質ノ改善ニ在リ殊ニ歐米諸國ニ比シ資力ニ限

リアル我國トシテハ特ニ比點ニ留意セスムハアラス

從來支那人ノ本邦ニ留學シタルモノカ却テ日本ノ惡言ヲ事トシ日支國交ノ禍ヲ成シ居レリトハ屢々人ノ言フ所ナリ右ハ據スルニ日支兩國關係ノ根本趨勢及過去因襲觀念ヨリ生スル殆ント避クヘカラサル現象ナリト雖モ一ハ又日本ニ於テ一般社會ヨリ種々輕侮的待遇ヲ受ケタルコト乃至日本ノ皮相ノミヲ觀察シテ歸國セル者カ自己ノ誤想ニ基キテ日本ヲ紹介スルコト等其因ヲ爲スモノナルカ如シ

斯カル情況ニ對スル最良ノ匡正方法ハ日本ニ留學スル支那人留學生ノ品質ノ昂上ニ在リ(明治初年ノ我遣米留學生ト近年少クトモ大戰初期頃迄ノ我在米學生ノ成績及拔テ其日本人ノ頭ニ米國教育ノ價值ニ關シ與ヘタル印象如何ヲ比較スルトキハ思ヒ半ニ過タルモノアラム)

二、偏頗待遇ノ撤廢

支那人ハ特ニ體面ヲ重ムスル國民ナルカ故ニ我諸學校若ハ社會一般ニ於テ偏頗ノ嫌アル待遇ヲ與フルトキハ假令善意ニ出ツルモノニテモ數々其惡感ヲ買フノ虞アリ歐米ニ於テハ支那人學生ノ割合ニ優遇セラレ居ル方面モ有之ニ比較シテ日本ニ對シ惡感ヲ懷キ居ル者少ナカラズ諸學校ニ於ケル偏頗待遇ノ除去ハ比較的容易ニ之ヲ行フコトヲ得ヘシ唯社會一般ノ與フル偏頗

一一七

待遇ニ至リテハ積年ノ歴史的感情日本ノ社會情況經濟情況家屋ノ構造等ヨリ歐米諸國ト均衡ヲ保ツノ域ニ達セムトスルモ甚タ困難ナル事情アリ此點ニ就テハ篤ニ考究ノ必要大ナリ

三、日本留學ノ特長

經費ノ僅少ナルコト研學ノ容易ナルコト修ツタル學問ノ應用ノ廣キコト等ハ支那人留學生ニ取リ日本ヲ選擇セシムル有力ナル諸點ナリ

日本ノ留學カ歐米留學ニ比シ經費ノ僅少ニテ足ルヘキコトハ云フ迄モナク又同文ナルカ上ニ同系統ノ思想ノ上ニ樹立セラレタル文明ヲ有スル日本ニ於テ一應消化セラレタル西洋文化ヲ研究スルハ支那人ニ取リ甚タ便宜多キ次第ナリ從テ日本留學ハ比較的短日月間ニ相當ノ效果ヲ擧ケ得ルノ便アリ(先年支那政府ニ於テ歐洲ニ留學シタル者ト日本ニ留學シタル者トニ同一事項ニ付立案セシメタルニ歐洲ニ留學シタル者ハ月餘ニシテ案成ラサルニ反シ日本ニ留學シタルモノハ日本ノ法制ニ擬シテ一週日ニシテ之ヲ作レリトノ一例モ之アリタル趣ナリ)唯最近支那人間ニハ日本留學ハ歐米ニ赴ク能ハサル場合ノ間ニ合セニ過キス到底日本ニ於テハ眞ノ研究ヲ遂クルコト能ハス特ニ支那人ノ注意ヲ拂ヒ居ル工業教育ニ於テ然リトノ感想行ハレ居ルモノノ如シ事實上日本カ相當ノ域ニ達シ居ラサル科目ニ就テハ致方ナキ次第ナルモ右ノ如キ漠然

タル感想ハ我ニ於テ十分ノ注意ヲ爲シテ優良學生ノ養成ニ勵ムルトキハ餘程之カ匡正ノ餘地アルモノト信ス

要スルニ日本留學ノ支那人ニ取リ甚タ便宜多キ所以ヲ支那人ニ領得セシメ尙其實效ノ大ナル様工夫ヲ凝ラスノ必要アル次第ナリ

四、出來得ル限リ合辦組織ヲ探ルコト

支那人ハ官民ヲ問ハス體面問題ヲ重要視スルカ故ニ經濟事業ノミナラス本案ノ問題タル教育事業ノ如キモ亦合辦組織トスルノ望マシキハ湖南、エール、大學等ノ先例ニ見テ明カナリ故ニ出來得ル限リ合辦組織トシテ名義上功ヲ彼我ニ岐テ而モ我ニ於テ其實權ヲ收ムルノ工夫甚タ緊要ナリ

五、我官民協力ノ必要ナルコト

日支親善ハ單ニ官邊ノ努力ノミニ依リテ齎ラサルヘキ性質ノ事態ニ非ス民間ニ於ケル有力者ノ盡力及一般國民ノ心得カ事ノ成否ニ最モ重大ナル影響ヲ與フルモノナルコト云フ迄モナシ此點ハ本案ノ確立、運用上特ニ注意スルコトヲ要ス

第三 實行案

彼上ノ趣旨ニ基キ具體的實行ノ緊要ナル事項ヲ列學スレハ左ノ如シ

110

- 甲、主トシテ日本ニ於テ爲スヘキ事業
 - 一、優秀學生優遇法ノ講究
 - 二、官立諸學校ニ於ケル補助費制度ノ廢止
 - 三、日本人教師學生ト支那人留學生トノ親睦
 - 四、私立諸學校ニ於ケル監督ノ緊縮
 - 五、支那人教育ノ爲ニスル健全ナル學校ノ發達補助
 - 六、外國人教育視學官制度制定
 - 七、支那人留學生言動特ニ政治的煽動者ノ取締
 - 八、日支人社交機關ノ設立
 - 九、寄宿舎ノ設立、生活情態ノ改善
 - 十、新聞ノ利用
 - 十一、我小學校教科書ノ内容改善
 - 十二、金融關係

- 十三、支那人教育事務ニ關スル研究會ノ設立
- 十四、支那留學生監督事務所ノ發達
- 乙、主トシテ支那ニ於テ爲スヘキ事業
 - 十五、支那各地ニ日本學校入學試験制度設置
 - 十六、支那各地學校設立
 - 十七、日本語普及方法講究
- 丙、資金調達問題
 - 甲、主トシテ日本ニ於テ爲スヘキ事業
 - 一、優秀學生優遇法ノ講究

優秀學生養成ノ趣旨ニテ獎學金ノ授與、高等專門學科講究ノ便宜、供與等ニ關シ適當ノ方法ヲ講
スルコト望マシキ次第ナリ入學試験其他ノ試験モ此趣旨ヲ體シテ之ヲ行フコトヲ要ス

二、官立諸學校ニ於ケル補助費制度ノ廢止

現在我國ノ官立學校在學支那人留學生ハ悉ク支那政府ノ官費生ナルカ彼等ハ在學日本人學生ノ支
拂ヒ居ル授業料其他ノ經費以外所謂補助費トシテ幾何カノ支出ヲ要求セラレ居リ(例ハ東京高等

111

工業學校ニ於テハ支那人留學生ハ一人ニ付年額約二百圓ノ補助費ヲ支拂フコトヲ要スルコトナ
 リ居レリ。如斯補助費ヲ支拂ハシムル理由ハ元來我官立學校ニ於テハ日本人學生ヲスラ充分收容
 シ能ハサル現狀ナルニ拘ラス特ニ支那人ヲ收容スルモノニシテ之カ爲特別ノ設備ヲ必要トシ更ニ
 此等支那人學生ニハ日本語ヲ教授スルノ必要アリ旁々右補助費ヲ徵收シ之カ資金ニ充ツルハ尙ニ
 己ムヲ得サル次第ナリト云フニ在リ尤モノ次第ナリト雖モ兎モ角表面偏頗ナリト解セラルヘキ此
 カル待遇カ支那人ニ少ナカラサル惡感ヲ與ヘツツアルノ實情ナルニ就テハ日支國交ノ大義ニ考ヘ
 テ之ヲ撤廢スルノ方法ヲ講スルコト肝要ナリ

現在我各官立學校ニ於テ徵收シ居ル補助費額大凡次表ノ如シ

東京高等工業學校

授業料一ケ年一人ニ付五拾元
 補助費一ケ年一人ニ付貳百元
 毎年約五萬元餘

東京高等師範學校

授業料文科一ケ年一人ニ付六拾元
 理科一ケ年一人ニ付百元
 毎年約三千元餘

右高等師範學校ニ於ケル本邦生徒ハ無授業料

第一高等學校

授業料 補助費共一ケ年一人ニ付貳百元
 毎年約貳萬元餘

第二高等學校

授業料 補助費共 同上
 毎年約四千六百元餘

第三高等學校

授業料 補助費共 同上
 毎年約四千八百元餘

第四高等學校

授業料 補助費共 同上
 毎年約三千元餘

第五高等學校

授業料 補助費共 同上
 毎年約四千四百元餘

第六高等學校

授業料 補助費共	同上	毎年約三千四百元餘
第七高等學校		
授業料 補助費共	同上	毎年約三千元餘
第八高等學校		
授業料 補助費共	同上	毎年約二千元餘

一二四

三、日本人教師學生ト支那人留學生トノ親睦ヲ計ルコト
 從來學校ニ依リテハ既ニ此點ニ留意シ支那留學生トノ交際親睦ヲ計リ居ルモノアリト雖モ未タ遺憾ノ點少ナカラス支那人留學生ヲシテ偏頗待遇ヲ受ケ居ルトノ感ヲ去ラシメ自重ノ念ヲ培シ眞ニ日本ヲ了解セシムルカ爲ニハ日本人教師學生ニ於テ好ク遠來ノ留學生ニ對シ懇切ヲ盡シ便宜ヲ計ルノ心掛アルコトヲ要ス日常ノ友好ハ勿論懇親會等ニ就キテモ工夫ノ餘地アルヘシ

四、私立學校ニ於ケル監督ノ緊縮
 往年支那人留學生ノ本邦ニ雲集シタル時代ニハ中學程度ノ如何ハシキ學校アリタルモ今ハ之ナシ

乍去現今ノ私立大學中ニハ支那人ニ就キテ監督嚴ナラス入學ノ際ノ如キモ條件緩ニシテ殆ント日本語ニ通セサル者ヲ收容シ其結果留學生ハ學修ニ困難ヲ感シ學科ニ興味ヲ有セサルコトトナリ成績不良ヲ示シツツアリ而モ此等留學生ニ對シ總々「卒業」ノ文字ヲ避ケタル「畢業證書」ナルモノヲ授與スルカ如キモノモ有之模様ナリ此種ノ畢業生カ日支關係ニ害毒ヲ流ス次第ハ曩ニモ之ヲ彼ヘタルカ如クナルニ就キ私立學校ニ對シ十分ノ訓戒監督ヲ加ヘ支那人留學生ニ對シテ監督ヲ嚴ニシ其成績ノ上進ヲ計ラサルヘカラス如斯方針ニ出ツルコトハ經濟關係ヲ顧慮スルノ必要大ナル私立學校ニ取リ一ノ苦痛ナル場合モ有之ヘク自ラ私立學校ノ支那人收容數ヲ標準トシテ相當ノ補助金ヲ給與スルノ必要アルヘシト信ス

- 約言スレハ此點ニ牽聯シテ探ルヘキ手段大要左ノ如シ
- 一、支那人留學生入學要件ヲ日本人同等タラシメ特ニ日本語ノ試験ヲ嚴ニスルコト
 - 二、進級及卒業要件ヲ日本人同等タラシムルコト
 - 三、支那人留學生收容數ニ應ジテ補助金ヲ給與スルコト
 - 四、視學官ヲシテ特ニ本件ニ注意セシムルコト
 - 五、入學ニ支那留學生監督事務所ノ身元證明ヲ必要トセシムルコト

一二五



五、支那人教育ノ爲ニスル健全ナル學校ノ發達補助

支那人教育ヲ目的トシ又ハ目的ノ一部トスル學校ノ健全ナル發達ヲ勸奨セサルヘカラサルハ云フ迄モ無キ義ナルカ其内特ニ注意スヘキハ支那留學生ノ本邦到着後第一着歩トシテ入學スヘキ日本語研究ヲ目的トスル豫備學校ヲ完備セシムルコトナリ支那人留學生ノ成績カ其日本語ノ智識ト重大ナル關係アルハ云フ迄モナク又此等留學生ノ本邦滞在ノ初期ニ方リテ充分ノ監督ヲ受ケ眞面目ニ修學ノ慣習ヲ作ラシムルハ本邦留學生一般成績ノ上進上特ニ注意スヘキ要點ナリ此目的ノ然メニ速ニ執ルヘキ手段次ノ如シ

- 一、在神田區東亞高等豫備學校ノ如キ種類ノ學校ヲ發達セシメ若ハ設立スルコト
 - 二、支那人ノ日本語修得ノ便宜ヲ講シ居ル相當學校ニハ補助金ヲ與フルコト
- 尙上述ノ如キ支那人本邦滞在初期ニ入學スヘキ學校ノミナラス支那人教育ヲ主要ナル目的トセル學校ヲ扶掖シテ其發達ヲ計ルノ必要アリ東亞同文書院ノ如キ大ニ改革ノ餘地アルモノト思考セラレ此等ノ點ニ就テハ特別記外國人教育事務委員及日支協會ヲシテ十分ニ調査考究セシムルヲ要ス

六 外國人教育視學官制度制定

在本邦外國人留學生ト云フモ其大部分ハ支那人及朝鮮人ナルカ此等留學生ニ關スル教育事務監督上外國人教育視學官制度ヲ設ケ特ニ注意ヲ加フルコトトスルハ支那留學生教育上緊切事ノ一ナリ視學官ニ於テ嚴重ナル監督ヲ加ヘ各方面ニ於ケル統一ヲ計ルノ必要ナルハ言フ迄モナキ處ナルモ現今ノ本邦ニ於ケル外國人教育情況ニ顧ミ特ニ此必要大ナリト認ム

七、支那人留學生言動特ニ政治的煽動者ノ取締

在留支那中ニハ一種ノ政治浪人ニシテ既ニ中年ヲ超ニ別段ニ眞面目ニ修學スルコトナク唯折アルコトニ年若キ留學生ヲ煽動シテ排日言動ニ出テシメ其及ホス所ノ惡影響少ナカラサルモノアリ此等ニ就キテハ從來警視廳ニ於テモ相當注意ヲ加ヘ居ル次第ナルカ何トカ積極的取締ノ方法ヲ講スルノ必要之アル義ナリ場合ニ依リテハ退去命令ヲ發スルノ必要モ之アルヘシ茲ニ注意ヲ要スルハ此等ノ煽動者流ニハ實ハ政治的野心ヨリ彼等ヲ使用セムトスル向及年少者ニシテ彼等ノ巧言ニ騙カサルモノトノ雙方ヨリ金圓ヲ取得スル者少ナカラサル實情即チ是ナリ但シ警察官ニ於テモ日常支那人ヲ遇スルニ丁寧懇切ヲ旨トシ取扱上可成玉石混淆ニ陥ラサル様留意スルヲ要ス時宜ニ依リテハ一般警察官ニ對シ支那人取扱振ニ關スル内訓ヲ發セシムルノ必要アランカ

八、日支人社交機關ノ設立

日本ニ於ケル支那留學生ノ生活カ歐米ニ於ケル支那留學生ノ生活ニ比シ居心地惡シトノ不平ハ屢々之ヲ泄スモノ之アリ援テハ日本ノ文明ハ要スルニ歐米文明ノ皮相的模倣ニ過キス眞ニ學ヲ修ムトスルモノハ歐米ニ赴カラサルヘカラスト云フカ如キ感想ニ力ヲ添フルノ虞少ナカラス然レトモ是カ匡正ニ方リテ困難ナル事情ハ日本ノ風俗習慣上歐米ノ如ク一般個人ノ家庭ヲ開キテ外國人ヲ歡迎スルノ便宜ト用意トヲ缺如シ居ルコト其一二居レリ不得已ルカ故ニ我名門富豪ニ於テ時ニ園遊會ヲ催シ又ハ社會的ニ威重アル人士ノ主宰ノ下ニ日支協會等ノ設備ヲ爲シ日支人特ニ智識階級トノ社交ノ機會ヲ多クスルニ努メサルヘカラスト唯此點ニ於テ特ニ注意ヲ要スルハ支那人ノ事物ヲ觀察スルニ方リテ常ニ物質的利己的標準ヲ以テスルノ性癖ナリ從テ(本邦ニ於テ何等支那人ノ爲メ便宜ヲ計ラムトスルトキハ忽チ何カ爲ニスル所アルカノ如ク觀測スルヲ常トス斯カル例證ハ甚タ多キモ著シキ例トシテハ先年三井關係ニ於テ支那人ノ爲何等カノ設備ヲ爲サムトシタル際支那人留學生等カ自分等ハ三井ノ如キ商人ノ儲仕事ノダシニ使ハルルヲ欲セスト憤リ右計劃ヲ中止セシムルニ至レルカ如キ即是ナリ此難問ヲ解決スルノ一策トシテ)利害關係ヨリ事ヲ爲サムトスト云フカ如キ疑ヲ容ルルノ餘地ナキ方面ニ人ヲ求メテ此事業ヲ經營セシムルコトヲ要ス

九、寄宿舎ノ設立、生活情態ノ改善

留學生ノ成績如何ハ實ハ其素行如何ト重大ナル關係アリ在本邦支那人留學生ノ素行ニ就テハ(其若初年)遊學スル彼等ノコト故(或程度迄ハ大目ニ見ルヘキモノトスルモ尙現今ノ如キ情況ハ甚タ面目カラス是非設備整ヘル寄宿舎ノ設立ヲ望マヌムハアラス勿論當初ハ窮屈ナル寄宿舎生活ハ彼等ノ好マサル處ナルヘシ然レトモ其費用比較的低廉ニシテ而モ在宿生ノ成績佳良ナルニ及ハ、自ラ學生ヲ吸收スルコトヲ得ヘシ勿論此寄舎事業ハ餘程ノ巧略ト忍堪トヲ要スル事業ナルヲ覺悟セサルヘカラス然レトモ一旦成效ノ緒ニ就クトキハ其效果顯著ナルモノアラム支那人關係ノ事業ニ於テ特ニ忍耐ノ必要ナルハ湖南「エール」大學、武昌「ブリン」大學等ノ經營當初ノ甚タ不振ナリシモノ一旦成效ノ緒ニ就クヤ忽チニシテ良好ノ成績ヲ擧グルニ至リシニ見テ之ヲ領得シ得ヘシ尙ホ右寄宿舎ノ設立實現セラル、ト雖モ在本邦支那留學生ノ全部ヲ收容スルカ如キハ到底不可能ノコトナルニ付同時ニ彼等ノ居住スル下宿屋等ニ對スル取締ハ一層ノ緊縮ヲ必要トス尙寄宿舎ハ個人事業トシテ小規模ノモノヲ多數造ルヘシ

十、新聞ノ利用

支那ニ於テ口舌文筆ノカノ大ナルハ日本ノ狀況ニ顧ミテハ殆ント想像シ能ハサル程ナリ兼廉ハ實

ハ既傳流説ヲ喜フニ過キスト雖モ而モ此ノ實情ハ新聞ノ利用ヲ必要且有效ナラシム故ニ次ニ列記
スルカ如キ事項ハ大ニ注意ヲ加フルノ必要アリト信ス

支那新聞ヲ威化シ其社説記事ニ支那人教育ニ關スル帝國ノ事情及意圖ヲ私報セシムルコト

本邦ノ有力ナル新聞紙ヲシテ常ニ其論説ヲ以テ日支親善ノ必要ヲ唱道セシメ日本カ如何ニ誠意誠

心ヨリ支那留學生問題ニ焦慮シツ、ナルカラ述ヘシムコト

日支關係ノ諸學校ニ日本人及支那人ノ爲ニ新聞記者養成科ヲ設ケ又ハ少クモ新聞記者養成ノ趣

旨ヲ以テ學科ヲ置梅スルコト

尤モ本項ハ教育事項ノミニ限ラス一般政策ノ問題トシテ剝奪ヲ講究ヲ加フル方然ルヘキカトモ思
考セラル

十一、我小學校教科書ノ内容改善

究察本邦人中ニハ支那人ニ對スル態度甚宜シキヲ得サルモノ多シ之等ヲ匡正スルニハ之ヲ小學教
育ニ求ムルヲ以テ最捷徑且有效ナル一方法ト思考セラル即我小學校教科書中ニ日支兩國親善提携
ノ必要ナルコトヲ表ハス文句ヲ挿入シテ我小學生ヲシテ我國カ支那ト提携スルコトカ兩國ノ相
ナルコトヲ深ク印象セシメ支那人ニ對シ輕侮ノ言動ヲ謹マシムルコトハ極メテ必要ナリト云ハサ

ル可ラス從テ彼我ノ間ヲ疎隔セシムルカ如キ文句ハ努メテ之ヲ避ケシムルヲ要ス(例之ハ從來ノ
教科書中ニ往々發見セル「討テヤ德セヤ清國ヲ」等支那人ニ惡感ヲ與フルカ如キ文句ハ全然之ヲ教
科書中ヨリ削除セサル可ラス)

十二、金融關係

支那内地所在ニ動亂アルノ結果官費生、私費生共ニ時々故國ヨリノ送金絶エ其際ニハ在本邦支那
公使館又ハ中華民國留日學生監督事務所ニ補助ヲ願出ツル者少ナカラス此等ノ點ニ就テハ餘リ立
入りテ世話スルハ却テ彼等ノ感情ヲ損フノ虞有之ルニ付充分ノ注意ヲ以テ支那公使館、留學生監
督事務所等ト協議ヲ進クルヲ要スル義ナルカ之ヲ打捨テ置キテハ無賴漢ヲ養成スルノ結果ト爲ル
ノ虞アリ

十三、支那人教育事務ニ關スル研究會ノ設立

以上列舉セル諸點ハ更ニ周密ノ講究ヲ加ヘテ始メテ實行ニ着手シ得ルコト、ナルヘシ而シテ之カ
講究特ニ之ニ要スル費類等ニ就テハ夫々専門家ノ所識ヲ參照スルノ必要之アルヘシ斯カル研究會
ノ組織トシテハ左ノ如キ方法ニ依ルヲ可トスヘキカ

第一案 外國人教育事務研究會ヲ文部省内ニ設立スルコト

其編成ハ

委員長	文部次官	
委員	文部省高等官	二名
	外務省高等官	一名
	内務省高等官	一名
	帝國大學教授	一名
	高等工業學校教授	一名
	高等商業學校教授	一名
	高等學校教授	一名
	私立大學教授	二名
	專任高等官待遇	二名
書記		三名

等トスルヲ可トスヘシ名稱ツ外國人教育事務一般ニ關スルモノトスルハ支那人ノ感情ヲ害セサル點等ニ於テ利益多カルヘシ

第二案 全然獨立ノ機關トシテ外國人教育事務委員會ヲ作り又ハ支那人教育ニ多大ノ興味ヲ感シ居ル知名ノ士ヲシテ之カ委員長タラシメ其下ニ略ホ第一案ノ如キ顏觸ノ委員ヲ置クコトトスヘシ此方法ハ事務進捗上及民間ヨリ資金ヲ募集スル場合等便宜多カルヘキモ實ハ冗官ヲ設クルノ嫌アリ又餘リニ人目ヲ惹クノ虞有之ルヘシ寧ロ官邊ニ於テハ第一案ノ如キ形式ヲ採リ置キ別ニ民間ニ日支協會ノ如キヲ興シ此方面ノ盡力ヲ請フコトトスル方適當ナルヘシ此場合ニハ民間施設ノ分ハ第八項所載日支社交機關ト合同セシムルヲ得ヘシ

第三案 團匪債金ノ幾部分ヲ支那ニ返還シテ日支親善ニ資セシメトスルカ如キ案ノ成立ヲ見ル場合ニハ此目的ノ爲ニ設ケラルヘキ機關ノ一部トシテ第一案ノ如キ編成ノ委員會ヲ設クルコト右外國人教育事務委員會ノ事務ハ結局大體次ノ如クナルヘシ

一、在本邦官公立學校ニ於ケル外國人學生ノ取扱方及其成績ニ關スル調査

二、外國人教育方法及其機關改善策ノ講究

三、外國人教育ノ一般の監督

四、外國人留學生ノ私的生活情況ニ關スル調査及其改善策ノ考究

十四 支那留學生監督事務所ノ發達

中華民國留日學生監督事務所（赤坂區靈南坂町所在）ハ目下在日本支那留學生監督ニ關スル唯一ノ機關ニシテ我官立學校ハ同事務所ノ身元保證ヲ以テ入學ノ要件トナシ居レリ然レトモ其組織設備等甚タ遺憾ノ點多シ同事務所ヲ十分ニ發達セシムルトキハ留學生ノ一般監督ハ勿論其金融關係等ノ問題ヲ解決スルニ便宜多クナルヘシ唯支那人ノ體面問題ニ觸レサル様充分支那公使館等ト協議ヲ遂ケ資金ノ補助ヲ爲ス場合等特ニ周到ノ注意ヲ必要トスヘシ

十五 支那ニ豫備學校ヲ設置スルコト

本邦ニ留學セムトスル支那學生ノ爲ニ豫備智識ヲ與フルノ必要アルカ故ニ支那各地ニ右ニ應スル相當ノ豫備學校ヲ新設シ特ニ之ニヨリ日本語ヲ修得セシムルコトハ本邦渡來後初メテ日本語ヲ學ヒツツ同時ニ其志ス其ノ學科ヲ修ムルニ比シ遙ニ便宜ナルノミナラス又一面優良學生誘致上ニモ裨益スル所アルヘシ從來我國ハ支那ニ於テ此種ノ設備ヲ缺クヲ以テ此際斯ル豫備學校ノ設置ハ焦眉ノ急務ナリ

乙、主トシテ支那ニ於テ爲スヘキ事業

十六 支那各地ニ日本學校入學試驗制度設置

日本ニ支那學生ヲ誘引スルノ一手段トシテ支那ノ重要都市例ハ北京、奉天、天津、漢口、上海、

廣東等ニ日本有力大學高等學校ノ入學試驗ヲ行ヘハ留學生ノ學力ヲ昂上セシムルニ力アルト同時ニ支那ニ於ケル日本語講習ノ風ヲ助長スルノ效アルヘシ入學試驗ニ優等ノ成績ヲ舉ケタル者ニ對シテハ適當便宜供與ノ方法ヲ講スルモ亦然ルヘシ此等ノ試驗ハ便宜上公使館及領事館ニ於テ之ヲ行ハシメテ可ナリ（外國ノ例トシテ）（一）英國ノ「オックスフォード」大學、（二）「ケムブリヂ」大學、（三）香港大學、（四）倫敦教師大學等カ年々一回若ハ二回支那各地若ハ香港等ニ於テ高等、初等、豫備等各種ノ試験ヲ施行シ其高等地方試験及證書ヲ有スル者ハ或條件ノ下ニ英本國及植民地大學ニ對シ入學試験ヲ免除セラレ又多クノ會社モ右證書ニヨリテ其會社ニ對スル豫備試験ヲ省クコトトナシ居レリ）

十七 支那各地學校設立及補助

重要ナル支那各地ニ小、中、太學校及實業學校程度ノ學校ヲ設立シ又ハ既ニ設立セラレタルモノニ相當ノ補助ヲ與ヘテ之カ發展ヲ計ルコト

- 一、北京、天津、濟南、上海、漢口、福州、廣東ニ中學校ヲ設立シ各生徒百名宛ヲ收容シ費額一校三萬圓トス
- 二、北京、上海ニ大學校ヲ設立ス一校費額五十萬圓

三、各地ニ一校二十五名ヲ收容スル小學校ヲ設立スルコト一校費額一箇年八千圓
 四、實業學校ヲ北京、天津、濟南、福州、上海ニ建設シ一校費額一箇年十萬圓トス
 本項ハ費額ノ關係上之カ實行甚タ困難ナリ當分所數個ノ中學校、實業學校ヲ設立シ將來發展ノ端
 緒トスルノ外ナカルヘシ

十八 日本語普及方法ノ講究

日本語普及ノ手段トシテ支那中學校、師範學校ニ於テ日本語ヲ必須科目タラシメ其他ノ諸上級學
 校ニ於テモ之ヲ教授セシムルコト、其他出版物配布等ノ方法ヲ講スルコト、第十四項支那各地ニ
 テ日本學校入學試驗行使、第十五項支那ニ於ケル學校設立等ハ之カ重要有效ノ手段ナリ日本語普
 及カ日支親善増進策ノ一大重要要件タルハ云フ迄モナキ所ニシテ此點ハ現ニ支那政府有力者間ニ
 テモ考量ヲ加ヘ居ル義ナルカ尙更ニ日本語ノ支那ニ普及セラルルハ支那ニ於テ一ノ確乎タル勢力
 ヲ形成スルモノタルコトヲ忘ルヘカラスサレハ適當ノ方法ヲ採リテ之カ實效ヲ舉クルコト洵ニ急
 務ナリ此點ニ關シ多大ノ注意ヲ要スルハ日本人教師ヲ充分ニ選擇スルコトナリ(往年教習ノ品質
 惡シカリシコト一原因トナリ折角緒ニ就キタル日本人ニ依ル教育事業ニ蹉跌ヲ來タシタルノ轍ヲ
 履マサルコトヲ要ス)

丙 資金調達問題

以上所述諸事業ニ要スヘキ費額及之カ著手先後ノ順序等ニ就テハ第十二項委員會其他専門的智識
 ヲ有スル者ヨリ意見ヲ徵スルノ必要アルコト勿論ニシテ右委員會ノ設立ハ最先ニ望マシキ次第ナ
 ルカ尙ホ右費額ハ伸縮ノ範圍甚タ大ナルヲ以テ切リニ的確ノ言ヲ爲シ難キ義ナリト雖モ極メテ大
 體ノ目安トシテ試ミニ之カ豫算額ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、優秀學生優遇費 年 三、〇〇〇圓
- 二、官立學校ニ於ケル補助費制度ノ撤廢ニ要スル費用 年 一〇〇、〇〇〇圓
- 三、日本人教師、學生ト支那人學生トノ親睦ニ要スル費用補助 年 五、〇〇〇圓
- 四、私立學校ニ於ケル監督ノ緊縮ニ關スル費用 年 三〇、〇〇〇圓
- 五、支那人教育ノ爲ニスル健全ナル學校ノ發達補助費 臨時 年 八〇、〇〇〇圓
- 六、外國人教育視學官制度制定ニ關スル費用 年 五、〇〇〇圓
- 七、支那人留學生言動特ニ政治的煽動者ノ取締ニ關スル 年 一三、〇〇〇圓

八、日支人社交機關設立費	年	三、〇〇〇圓
九、寄宿舎ノ設立、生活狀態改善事業ニ要スル費用	臨時年	一〇〇、〇〇〇圓
十、新聞操縱費	年	五〇、〇〇〇圓
十一、金融關係費	年	一〇、〇〇〇圓
十二、支那人教育事務ニ關スル研究委員會等設立費 (第二案ヲ採用スルモノトシ即第八項此等機關費ニ添加スヘキ費額)	年	二〇、〇〇〇圓
十三、支那留學生監督事務所發達	年	三、〇〇〇圓
十四、支那各地ニ日本學校入學試驗制度設定費	年	三、〇〇〇圓
十五、支那各地學校設立及補助	臨時年	二〇〇、〇〇〇圓
十六、日本語普及費	年	一〇、〇〇〇圓

水費

一三九

計

臨時年 四三〇、〇〇〇圓
年 三二二、〇〇〇圓

右ノ内第十五項支那ニ於ケル學校設立費ノ如キハ伸縮ノ範圍大ニシテ又第十項新聞操縱費ノ如キハ之ヲ別據トシテ本案ノ考慮外ニ置クコトヲ得ヘシ依テ假リニ大體ノ必要費額ヲ差當リ
臨時費 二五〇、〇〇〇圓
年額 三〇〇、〇〇〇圓
ト爲シ得ヘク又先後ノ順序ヲ積ヘテ更ニ減額ノ餘地アルコト前述ノ如シ
右費額ノ支辨ハ之ヲ

- 一、日支國私人ノ寄附金
- 二、團匪事件償金利用
- 三、支那政府支出金
- 四、三財源ニ依頼スルヲ可トスヘシ
- 五、日支國私人ノ寄附金

一三九

日本ニ於テ近時日支親善ヲ説キ之ヲ爲離分ノ盡力出資ヲ客マサル者少カラス適當ノ方法ヲ以テス



ルトキハ少クトモ十五萬圓位ノ資金ヲ集ムルコトヲ得ヘシ同時ニ支那人ヨリモ寄附金ヲ募集スルハ香港大學、湖南「エール」大學ノ先例ニ鑑ミ有望ナルノミナラス日支合辦ノ實ヲ舉クル所以ナリ

二、團匪事件償金利用

米國カ團匪事件償金ヲ實際損害高ニ超エタルモノトシテ(元金ニテ云ヘハ一〇、七八五、二八六弗一二仙)元利合計(ニテ云ヘハ)二七、九二二、五一九弗五七仙ヲ返還スルコトトナセル次第ナルカ日本ニ於テモ右賠償金大正七年一月現存殘高(元金約四四、六〇〇、〇〇〇圓)圓利子約二七、四〇〇、〇〇〇圓)即元利合計約七二、〇〇〇、〇〇〇圓ノ一部分ヲ適當ナル名義及方法ヲ以テ本教育事業案若ハ廣ク醫術其他ヲモ含ム公益事業ノ目的ニ使用スルコトト爲スハ本案計劃ニ要スル資金特ニ經常費ニ充ツヘキ資金カ到底寄附ノミニ依リテ調達スル能ハサルノ事情竝ニ從來米國ノ舉ケタル成績ニ鑑ミ緊要ノ處置ト認メラル

三、支那政府支出金

前項賠償金利用方策ニ伴ヒ支那政府ノ體面ヲ維持シ其隔意ナキ支持ヲ得ムカ爲ニハ支那政府ト交渉シテ假令僅少ナリトモ資金ヲ支出セシムルコトトスルヲ可トス支那政府ハ現ニ遣米留學生ノ爲

ニ年々五萬兩ヲ支出スルコトトナリ居レリ

(參考)

支那留學生ノ本邦現在在籍數左ノ如シ

東京

學校名	在籍員數
帝國大學	五二
第一高等學校	八五
高等工業學校	二五二
高等商業學校	二八
高等師範學校	二二七
音樂學校	二
美術學校	九
水産講習所	二
高等蠶糸學校	五

(大正七年六月現在内務省調査)

成城學校
東京藥學校
日本醫學專門學校
私立女子美術學校
體操學校
正則豫備學校
物理學校
國民英學會
電機學校
女醫學校
同文書院
私立農業大學
錦城中學校
川端畫學校
研數學館

六四
一四六
二〇七
七〇八
六〇三
一九三
三九一
八一八
六一三

一四三

明治大學
日本大學
中央大學
法政大學
早稻田大學
慶應大學
農科大學
女子大學
外國語學校
東亞豫備學校
日華學校
正則英語學校
政法學校
岩倉鐵道學校

二七〇
五三三
六〇六
一三〇
二二三
四九
三三三
一
九〇〇
一七〇
八〇
二一
六

一四二

REEL No. 調-0003

0062

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

地方	學校名	在籍員數
計	女子高等師範學校	六
	府立大阪醫科大學	二七八五
	京都府立醫學專門學校	六
	愛知縣立醫學專門學校	七
	南滿醫學堂	一〇
	富山縣立藥學專門學校	一三一
	關西學院高等學部	一
	關西學院高等學部	一一
計		一六八
總計	(右ノ内二三調査漏アレトモ其儘載録ス)	二九五三

(2) 在支日本人商業會議所聯合會ノ建議

一、支那人教育機關設置ニ關シ建議ノ件

日本ハ此際速ニ支那重要都市ニ支那人教育機關ヲ設置シ以テ日支兩國國民ノ文化的結合ヲ圖ル様御配慮アラント切望仕候

理由

支那ニ於ケル歐米人ハ我國人ニ比シテ幾多不利ノ地位ニ在ルニモ不拘而カモ其活動當ニ著々效果ヲ擧ゲツツアルハ御承知ノ如ク有之候這ハ畢竟歐米人カ能ク支那ノ國民性ヲ理解シ且ツ對支發展ハ窮極文化的提携ヲ基礎トセル經濟提携ニ非ツレハ萬全ヲ期シ難シトノ結論ヲ以テ支那ニ於テ續々支那人教育機關ヲ興レ以テ對支活動ノ根柢ヲ固メレルハ確ニ卓見ニ有之今日支那ニ於ケル歐米人經營ニ係ル小學以上ノ學校ハ三百餘校ノ多數ヲ算シ一方本國ニ於ケル支那人教育ト相俟テ文化普及ニ奏效シツツアルニ對シ我國ハ上海、旅順、奉天其他ノ學校ニ於テ多少ノ支那人ヲ收容シ教育シ居ルト雖モ之等ハ寧ロ日本人教育ヲ主眼トスルモノナルカ故ニ到底支那人教育ノ目的

ニ添フコト不可能ナル現狀ニ有之候、勿論對支教育事業タル僅少ノ歲月ヲ以テ效果ヲ收メ得ヘキ
モノニハ無之候得共其ノ日支親善タル畢竟兩者文化ノ結合ニ依リ甫テ其目的ヲ達成シ得ル次第ニ
有之候ヘハ此際進シテ支那教育事業ノ指導ニ任シ以テ爾國民ノ精神的理解ノ下ニ相互提携ヲ圖ル
コト當ニ焦眉ノ急務ナリト應考仕候、而シテ學校ノ種類及實行方法ニ就テハ大約左ノ方法ニヨル
方最モ可然思考被致候

一四六

一、學校ノ種類

- 農學校—廣東 杭州 漢口 濟南 奉天
- 醫學校—廣東 福州 上海 漢口 北京 濟南
- 工科—廣東 上海 漢口 天津 濟南 奉天
- 商科—廣東 上海 漢口 青島 天津 濟南 奉天

但シ是等各地ニ於テ同時ニ一律開校センコトハ經費其他ノ點ニ於テ實行不可能ナルヲ以テ今
日政治上ニ於テモ將又經濟上ニ於テモ實際ニ支那ノ中心點ヲ爲セル上海ニ於テ先ツ最モ完備
セル中央教育機關ヲ設置シ後漸テ遂テ支那全土ニ及ホスノ計ニ出ツルコト

二、經費

本件ノ目的カ既ニ日支親善東洋平和ノ大局ニ立脚セルモノナレハ宜シク國家事業トシテ經營ス
可キモノニシテ曩ニ米國ハ拳匪賠償金ノ半額ヲ支那ニ返還シ以テ支那留學生招致ノ資ニ當テ不
尠支那上下ノ好感ヲ得居ルニ鑑ミ我國亦如上ノ趣旨ニ基キ該賠償金殘額ヲ支那ニ返附シ該資金
ニ充當スル事ヲ得ハ最モ好都合ナリト思惟スルモ此事若シ不可能ナリトセハ官民舉テ之ニ融出
スルコト必要ナラン

尙本件ニ關シテハ大正八年一月十日上海日本人實業協會ヨリ閣下宛建議致候事有之茲ニ乍重複該
建議書寫一部相添御清鑒ニ供シ申候ニ就テハ閣下幸ニ吾等ノ希望御採用被成下速ニ目的達成致候
様御配慮賜ハリ度切望仕候

右在支日本人商業會議所聯合會ノ決議ニ由リ謹而及建議候也

一、對支慈善病院建設ニ關シ建議ノ件

支那重要都市ニ於テ日本ノ手ニ依テ完全ナル慈善病院ヲ建設スル様御配慮アラシコトヲ要致仕候
趣旨

一四七

日提携ノ積極的方法トシテ是亦必須條件タルハ改メテ申上候迄モ無之我國ハ既ニ廣東、厦門、濟南、北京等ニ此種病院ヲ有スレ共其規模及設備ハ外人ノ其レニ比シ甚敷遜色アリ到底所期ノ效果ヲ擧ケ難キ現狀ニ有之候ハ此際是等既設病院ヲ擴張整備スルト同時ニ更ニ進テ之ヲ天津、漢口、上海、重慶等ノ重要都市ニ逐漸増設シ以テ日支關係ヲ密接ナラシムルハ洵ニ現下ノ急務ナリト思考仕候、而シテ醫學校設立地ニ於テハ之ヲ附屬病院トシテ經營セハ經費其他ノ點ヨリ頗ル便宜ノ方法ナリト被存候

右在支日本人商業會議所聯合會ノ決議ニ由リ御清鑒ヲ仰申候ニ就テハ幸ニ閣下ノ御盡力ニ依リ速ニ實現方御高慮ニ預度此段謹而及建議候也

大正十年八月十日

在支日本人商業會議所聯合會

會長 野平道男

外務大臣伯爵 内田康哉殿

附 産業研究支那學生ノ合衆國入國許可

合衆國労働統計委員 Ethelbert Stewart 述
Labor Review 所載(一九二二年三月二十一日發行)
密勒氏評論報轉載

教育的見地ヨリ見ルトキハ米支關係ハ長キ背景ヲ有ス米支條約關係ハ米國ニ支那ノ勞力ヲ入ルルノ餘地アル間ノミ支那人ノ入國ヲ許可スト云フ觀念ノ上ニ立チ之ニ對シテハ商人、旅行者、大學生ヲ除外スルノ規定アレトモ米國國會ハ賃金労働者ナルモノハ悉ク入國ヲ許ササルコトト爲シ賃金労働ヲナシツツ勉學セル大學生ハ労働者トシテ歸國セシメタリ此ノ規則ハ今日ノ支那ニトリテハ大ナル苦痛ニシテ米國カ教育費ニ轉用スルヲ條件トシテ團匪賠償金ヲ支那ニ與フルヤ支那政府ハ之ヲ以テ外國ニ留學スル者ニハ一人四百弗ヲ支給スルコトトシタルモ之ニテハ三四年間ノ留學ニ足ラサルヲ以テ學生ハ賃金労働ヲ許ササル合衆國ニハ來ラヌシテ米國ノ金ニテ補助サレ乍ラ英佛伊等ノ學校ニ行キタリ尤モ之トテモ支那學生カ非産業的階級ニ屬シ文化的教育ノ爲留學スル間ハナシテ重大ニハアラサリシカ支那國情ノ進展ニ伴ヒ右規則ハ産業的ニ支那ノ苦痛トスル處トナレリ左記北京大學吏員ノ客年八月附著者宛書翰ハヨク之ヲ物語レリ